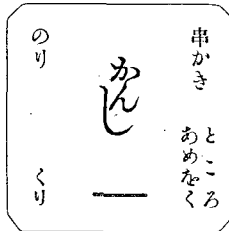


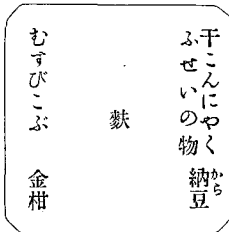
飯已後まいるをいふ、ちやのことはてんしんのちまいるをいふ、されば點心已後の茶子なる故、しほくしくこまやかなる物用、

ちやのこ



のり
くり

ところ計はまいらせず、あめをばこかはらけにてしるあめをなぐ也、あめにてところさして御まいり在、
のりあをかいしき在



むすびこぶ
金柑

ふかいしきすべし
むすびこぶ五葉の枝につけ候、
又時の花のふだにもつけ候、

〔成氏年中行事〕十二月朔日、御祝如常、節分之夜御方違御出、管領奉公、外様番ニ廻テ被勤之、
立春ニ御行水御手水參、御ピン過テ後、種々ノ御茶子被聞召テ後、又ヨルノゴトクシソクサス、ツ
イナノ夜半ノカタ、ヤドリアクレバ、ヤガテ春ニ成リケリ、

〔看聞日記〕永享八年六月十四日、祇園會結構云々、
○中 僧正伴僧等、於中門脇戸令見物、擅所へ遣ニ
獻點心二色、茶子一折、伴僧達爲賞翫也、
大和菰一籠、種二、

〔後奈良院御記〕天文四年二月十六日丁未、萬里小路中納言茶子進上、十八日己酉、自大聖寺茶子
一折給、

〔御湯殿上の日記〕慶長八年三月十六日、御わかんあり、御人數せうかうゐん殿、こんゑどの、中ゐ
ん、ほうちやうらう、三ちやうらう、とうちやうらう、なんくわ、しゆひつきよくら人也、ひる御ちや
のこの折いで、くもじまいる、夕かたく御まいる、はて、御かゆ、たいの物にてくもじまいる、
八年五月八日、かつしにて、八でう殿、めうほうゐん殿、正ごゐん殿なる、おとこたちしこう、う大辨
より御ちやのこの折まいる、

〔言經卿記〕慶長八年七月五日己未、冷亭月次和歌會有之、人數興門、千壽丸、藤壽丸、水無瀬、一齋、亭主、
四條、冷泉、倉部、堀川、極薦、官務、大進、今川、父子、宗超等也、讀揚計也、讀師、亭主、講師、極薦等也、先茶子ノ